

《評価の基準》

A：計画通りの成果を得られた

C：計画通りに事業が遂行できなかった

B：一部成果を得られないものもあった

D：事業に着手できなかった

No.	3つの視点			事業名	担当課	事業内容	H26までの評価と課題	評価	新No.	H27の評価	評価	今後の方針
	安全	安心	笑顔									
6	○	○		病後児保育事業	子ども課	<p>児童が病気又は病気の回復期にあり、集団保育が困難な期間、その児童を専用スペースにおいて一時的に預かる事業です。</p> <p>ニーズ調査では、保育所等を休んだことがあると、回答した人は7割を超えています。</p> <p>病後児保育の取り組みについては、関係機関と実施に向け、今後検討を進めていきます。</p>	<p>病後児保育については、未実施となっている。</p> <p>本事業に対しては、子育て世帯のニーズが高いため、平成27年度からの実施を目指していく。</p>	D	6	<p>平成27年度から市内医療機関の協力のもと、病児・病後児保育事業をスタートすることができ、子どもの病気の回復期まで、保護者が仕事等により家庭で保育ができない場合に専用施設で一時的に保育を行うことができた。</p> <p>病後児保育の利用が少ないことから、今後事業のPRに力を入れていく。</p> <p>【実施場所】 病児保育：岩見沢市立病児保育施設 病後児保育：東保育園病後児保育ルーム</p> <p>【登録児童数】276人 【利用実績（延べ利用児童数）】 病児保育：203人 病後児保育：24人</p>	A	今後も継続していく。
37	○	○		予防対策事業	健康づくり推進課	<p>感染症の発生及びまん延予防のため、予防接種を行っていきます。</p> <p>接種率の向上を目指し、感染症の流行の把握や、未接種者への勧奨を行っていきます。</p>	<p>ヒトパピローマについて、平成25年6月に厚生労働省からワクチンとの因果関係が否定できない持続的な痛みなどの副反応が接種後にみられたことから、適切な情報提供ができるまでの間、積極的な勧奨を控えるよう勧告があり、現在も継続中である。事業としては、今後も継続していく。</p>	B	36	<p>接種率は概ね8～9割を達成できている。今後も接種率の向上を目指し、わかりやすい周知や未接種者の勧奨を行っていく。</p>	A	今後も継続していく。
47			○	スポーツ少年団指導者講習会のPR・勧奨	生涯学習・文化・スポーツ振興課	<p>（財）日本体育協会等主催の講習会の開催について、関係団体（体育協会加盟団体・スポーツ少年団等）に情報を提供するなど、資格取得の勧奨を行い、広い分野の指導者の充実に努めていきます。</p>	<p>少子化の影響を受け、解散する少年団があり指導者登録者数は減少したが、講習会のPRや資格取得の勧奨に努めた結果、有資格者の割合が増加傾向にある。指導可能競技の偏りは解消されていないが、有資格者が増えて、専門的指導が図られた。今後も継続していく。</p>	B	45	<p>少年団数は前年度と同数であったが、少子化の影響を受け、全体的に登録者数は減少した。</p> <p>ただ、各少年団登録にスポーツ少年団の認定員資格者を2名以上登録することが義務付けられたため、多くの指導者が認定員講習会を受講し、各少年団の指導体制の充実に努めることができた。</p>	A	今後も継続していく。
76	○	○		幼児健診事後指導教室	健康づくり推進課	<p>心理相談員、保育士、保健師がスタッフとなり、幼児健診後、発達経過を観る必要がある幼児及び育児不安等のある母親を対象に、集団の場を利用し助言指導を行っていきます。</p> <p>療育が必要な児童には、関係機関と連携し、適切な支援の提供に努めていきます。</p>	<p>キッズクラブは、3歳児健診で発達の遅れのある幼児または子どもの関わり方に援助が必要な保護者に対し集団の場を提供し、子どもの発達状況を確認するとともに日常生活での関わり方を助言する目的で行ってきた。</p> <p>参加者のほとんどがプレ幼稚園などの集団を利用し、参加数も減ってきていることから平成25年度より教室を終了、個別支援に変更し、今後も継続していく。</p>	B	67	<p>教室の対象を1歳6か月児健診以降、3歳児健診までの児として実施しているが、健診や発達相談で紹介を受け、通級につながる児がここ数年増加し、個々への対応が不十分になる状況が出てきたため、実施体制を月1回から2回に変更（対象児は別々）。各10～15名前後の参加がある。適切な時期に発達を確認し、また児への関わり方等保護者への助言を行うため、臨床心理士、保育士、作業療法士、保健師等各専門職種がスタッフとして入り、個々の相談にあたっている。今後も継続していく。</p>	A	今後も継続していく。

No.	3つの視点			事業名	担当課	事業内容	H26までの評価と課題	評価	新No.	H27の評価	評価	今後の方針
	安全	安心	笑顔									
7	○	○		在宅における児童の支援（ファミリー・サポート）	子ども課	在宅における支援活動として、サービスを利用したい人と協力したい人がそれぞれ登録して会員の自宅等で保育サービスを行っていきま す。 民間で実施している事業の情報を提供するとともに、講座の開催など保育サービス提供者を支援していきま す。	提供会員の数が減少し、利用希望者の増加に対応することが難しくなっている。提供会員の開 拓が課題である。	B	7	提供会員の養成のため「保育サービス講習会（9項目24時間）」を実施し、全講座修了者18名に女性労働協会認定の修了証を交付した。民間活動グループの代表に講師を依頼するなど連携して、グループの活動を紹介・参加を呼びかけ、2名の会員登録があった。	B	講習受講者が事業に参加しやすいよう、児童館支援やPTAと連携した託児の実施など、活動の機会を作り、提供会員の確保につなげていく。
39			○	親になるための交流事業	子ども課	中・高生等が直接子育てをしている親子と語り、交流できる場の提供を行っていきま す。	中学生の乳幼児・母親などとの交流の場は設けられなかったが、高校生が「ひなたっ子」で乳幼児・母親と交流し、いたわりや思いやりの心を育んだ。今後も継続していく。	B	38	高校生が「ひなたっ子」で乳幼児・母親と交流し、命の大切さ、赤ちゃんや子育て中の親に対するいたわりや思いやりの心、また、自分を育ててくれた親への感謝の気持ちを育むことができた。 なお、中学生に対して交流の場を設けられなかった。	B	中学生については、就業体験等を利用して交流の場を設けることが出来るよう取り組んでいく。
79	○	○		児童見守りシステム	指導室	児童の安全・安心確保を目的に、市の光ファイバー網などの環境を活用したICタグ（無線末端）による見守りサービスを、希望者を対象に実施していますが、3年生まで対象者を拡大し、全小学校と3児童館に設置しているICタグを検知するセンサーを全児童館に整備するとともに、全小学生対象の不審者情報の一斉同報サービスを含めた見守りシステムの拡大を図っていきま す。	年々「ICタグサービス」「一斉同報サービス」の利用者が増えている。 「一斉同報サービス」の情報提供を各校より行うことが出来るようになったことを踏まえ、小学校のみではなく全中学校に利用範囲を拡充することを目指していく。	B	70	平成27年度は、小学校全体で77.8%の利用率で、1年生88%、2年生89%、3年生90%、4年生82%、5年生79%、6年生が41.2%となっており、6年生の利用率が低かった。	B	次年度以降は、利用率も高まるものと考えており、100%の利用を目標に学校を通じて各家庭に働きかけていく。
91	○	○		5歳児健診	健康づくり推進課	発達障害の早期発見と適正な支援を目的に実施する健診です。小学校就学前に発達の遅れを発見し、就学に向けた支援をすることを目的に します。		新規	82	発達支援の体制として、地域の保育園、幼稚園への巡回相談を実施し、集団場面の様子を把握し、必要な児を相談につなげている。3歳児健診以降は特に集団観察が重要とされているため、巡回相談を継続し、就学に向けて継続的に支援体制が組めるよう連携していきたい。	C	5歳児健診の実施については、就学に向けて保護者の意識が変化中、支援が必要な児に介入する機会としてどのような体制をとるべきか、今後も検討を続けていく。

子ども・子育て支援の3つの視点と評価

【安全（23事業）】 A：20事業 B：2事業 C：1事業  
【安心（61事業）】 A：58事業 B：2事業 C：1事業  
【笑顔（29事業）】 A：28事業 B：1事業 C：0事業